

COC 事業に期待

菅の台地区民生委員児童委員 会長 大角喜一さん

民生児童委員は、同じ地域住民として個々人が抱えている健康・福祉に関する悩みなどの相談や「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けたい」など高齢者が望む周辺環境を整えるお手伝いなどの仕事をしています。そして、それらを通じて得られた地元の情報や要望をあんしんすこやかセンターや専門職集団および行政に繋いでいきます。その際に当惑するのは、立場の違いや守秘義務の壁、制度のはざま等に撥ね返される場合が時々生じることです。

昨年COC事業の4つの取り組みをお聞きし、これこそ住民の願いを実現するのに不可欠なソフトインフラの整備充実事業だと嬉しくなりました。

私達が依頼されたのは、学生に住民の暮らしを理解してもらい医療・福祉連携の大切さを肌で感じてもらう演習の場での住民参加でした。しかし、私には血圧、体脂肪、骨密度測定でどれだけの人が集まってくれるのか不安でした。そこで毎月のふれあい給食会（参加者60～70人）を利用して実施したのです。

そして驚いたのは、何時もは食事が済むと直ぐに帰る方々が、食事跡を片付け測定器具を準備するまで待ってくれ、その後も楽しそうに話をしている姿でした。改めて人々の健康志向の強さに驚かされました。

今年も5月から演習が始まりますが、その際には、超高齢化社会に必要な人材教育のお手伝いになることも伝えて、幅広く参加を呼びかけたいと考えています。

どうか神戸市看護大学が今求められている貴重な人材育成の拠点として発展されますよう期待しております。

【地域が創る「須磨」のまち

須磨区保健福祉部長 谷真行さん

私たちのまち「須磨区」は白砂青松の須磨海岸、須磨アルプスなどの自然環境に恵まれ、平安貴族や源平合戦などの歴史・文化の史跡も多く、旧市街地とニュータウン、農村地域といった多様な面をもつ魅力あふれるまちです。

そしてこの地に息づく人たちは、「自分たちのまちは自分たちでよくしていこう」といった気概にあふれ、各地域では自治会、婦人会、ふれあいのまちづくり協議会、民生委員児童委員協議会など各種団体が主体となって、自主的な活動により子育て支援、高齢者の見守り、障がい者の活動支援、夏まつりや餅つきといった地域行事に取り組み、住民どうしが交流し支えあい助け合いながら暮らしています。

そのようななか、昨年5月の日本創生会議において、須磨区が神戸市内で唯一「消滅可能性都市」（少子化や人口移動に歯止めがかからず、将来に消滅する可能性がある自治体）と位置付けられました。今後少子高齢化が一層進むことはある程度やむをえませんが、「消滅」はいただけません。

これからの須磨区を若い世代が住まうまちにするとともに、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が求められています。行政としても地域とともに取り組んでまいりますが、とりわけ今の地域に不足しているのは「若い力」です。神戸市看護大学の地域活動への協力・参画は活動の担い手のみなさんにも参加されているみなさんにも大きな刺激となり、活力となっています。これからも一層のご支援ご協力をお願いします。



基礎看護技術演習Ⅲ

給食ボランティアのみなさんと。
(筆者は一列目中央右)



すまぼう

須磨区マスコットキャラクター